



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月31日

上場会社名 綿半ホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 3199 URL <https://watahan.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野原 勇
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 有賀 博 TEL 03-3341-2766
四半期報告書提出予定日 2023年11月13日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：無（動画配信のみ）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	61,978	△3.6	1,032	△8.3	1,261	△11.3	766	8.9
2023年3月期第2四半期	64,288	19.4	1,126	49.7	1,422	48.5	703	△12.8

（注）包括利益 2024年3月期第2四半期 707百万円（△8.4%） 2023年3月期第2四半期 772百万円（△10.5%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	38.50	—
2023年3月期第2四半期	35.43	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	78,348	21,571	27.5	1,082.33
2023年3月期	84,202	21,251	25.2	1,068.23

（参考）自己資本 2024年3月期第2四半期 21,571百万円 2023年3月期 21,251百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	22.00	22.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	23.00	23.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	138,000	2.8	2,724	13.4	3,120	2.0	1,850	11.9	92.99

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	19,931,196株	2023年3月期	19,894,434株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	296株	2023年3月期	296株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	19,908,601株	2023年3月期2Q	19,871,488株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

決算に関する説明は、当社ウェブサイト (<https://watahan.co.jp/ir/>) を通じて動画配信にて行う予定です。決算説明資料についても、同時に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、行動制限が解除されたため、景気は緩やかに回復しております。一方で、世界的なインフレ圧力や金融引締め、ロシア・ウクライナ情勢の長期化等、世界情勢は不安定な状況にあり、我が国の経済は依然として先行きが不透明な状況にあります。

綿半グループが関係する事業環境のうち、小売事業では、物価上昇による消費者の節約志向の高まりに加えて、異業種を含む競合他社との競争も激しさを増しております。

建設事業では、景気が緩やかに回復する中、民間建設投資は持ち直しているため、市況は堅調に推移いたしました。しかしながら、住宅市場においては、新築戸建住宅着工戸数が減少傾向にある中で、建築コストは上昇する状況が続いております。

貿易事業では、行動制限の解除により、化粧品市場は各種商品の需要が回復傾向にあります。一方で、医薬品市場での毎年の薬価改定による市場の抑制リスクや、前年から続く円安の影響もあり、依然として不安定な事業環境となっております。

このような状況下におきまして、経営理念である「合才の精神」に基づき、持株会社である当社をグループの中核として、各グループ会社が最大12%の賃上げをはじめとする人的投資に積極的に取り組むほか、事業価値の向上、新規事業領域の創出に努め、時代の流れに適合した事業ポートフォリオの構築に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は619億78百万円（前年同四半期比3.6%減）、営業利益は10億32百万円（同8.3%減）、経常利益は12億61百万円（同11.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億66百万円（同8.9%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

(小売事業)

小売事業では、スーパーセンター、ホームセンター、食品スーパー、ドラッグストア、インターネット通販等多様な業態を展開しており、重点施策として「店舗改装・新業態の開発を継続して推進」「流通網の拡大」「オリジナル商品の開発・SPA化の加速」に取り組んでまいりました。

「店舗改装・新業態の開発を継続して推進」の取組みとしては、2023年6月にオープンした人とペットのための総合ドラッグストア『ウェルネスライフガーデン』（長野県佐久市）に調剤薬局『わたぴー薬局 佐久中央店』を新たにオープンいたしました。

「流通網の拡大」では、世界各地から食料品を直接仕入れるなど、新たな仕入先の開拓に注力いたしました。また、1つの漁船で採れた魚を丸ごと買付ける「一船買い」の取組みも新たに開始いたしました。この取組みは、鮮度の高い魚介類を低価格でお客さまに提供するとともに、漁業関係者への支援にも繋がり、地域経済の活性化にも寄与しております。

「オリジナル商品の開発・SPA化の加速」では、食品や日用品に加え、現在需要が拡大しているキャンプ用品等の開発にも注力しております。また、グループシナジーを活かした取組みとして、新たにグループ入りした小諸動物病院と共同で、オリジナルのペット用品の開発などにも取り組んでおります。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高については395億32百万円（同3.2%増）、セグメント利益は5億59百万円（同13.2%増）となりました。

(建設事業)

建設事業では、木造建築、鐵構、屋根外装改修、自走式立体駐車場等を展開しており、「木材の加工・流通網の構築」「木を使った商品開発の推進」「鉄骨分野の海外ネットワークの構築」を重点施策として取り組んでまいりました。

「木材の加工・流通網の構築」では、綿半林業が有する原木の仕入からプレカットまで行う製造機能を活かし、長野県産の木材の有効活用による地域経済の活性化に注力しております。

「木を使った商品開発の推進」では、柱のない開放的な空間を短工期で実現した、木造システム建築『PREST WOOD』の販売を5月に開始したほか、6月には介護施設や保育施設等の非住宅木造建築の販売を開始いたしました。

「鉄骨分野の海外ネットワークの構築」では、近年の鉄骨需要の拡大と物件大型化に対応するため、ミャンマー及び大連のCADセンターで作図DXによる作業効率化に取り組みました。また、さらなる海外ネットワーク構築のため、ベトナムに新たなCADセンターの開設も予定しております。

その他、超軽量太陽光システム『LIGHTON SOLAR』の販売を7月に開始しました。従来、荷重負荷などが原因で設置を諦めていた屋根に対しても、太陽光発電設備の設置が可能となりました。今後もカーボンニュートラルの実現に向け、さらなる製品開発を続けてまいります。

当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は182億54百万円（同22.4%減）、セグメント利益は2億8百万円（同78.3%減）となりました。

(貿易事業)

貿易事業では、世界20カ国以上から天然由来の医薬品・化成品原料の輸入販売、不妊治療薬の原薬製造等を行っており、「食品分野への進出」「肥料・飼料分野の拡大」を重点施策として取り組んでまいりました。

「食品分野への進出」では、小売事業と連携し、メキシコから輸入しているウチワサボテンを使用したオリジナル商品を開発するなど、海外ネットワークを活かした食品の輸入販売に注力いたしました。

「肥料・飼料分野の拡大」では、100%天然植物由来の動物飼料添加物を使用した飼料の研究開発を進めております。

その他、海外原料の安定供給への取り組みや不妊治療薬の原薬製造の安定化・高品質化に向けた精製率を高める方法の研究開発に引続き取り組んでまいります。

当第2四半期連結累計期間における業績は、上期に納品が集中したことなどが影響し、売上高は34億31百万円（同53.6%増）、セグメント利益は6億11百万円（同413.7%増）となりました。

(その他)

「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。売上高は7億59百万円（同213.3%増）、セグメント利益は1億9百万円（同123.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ、58億53百万円減少し、783億48百万円（前期末比7.0%減）となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ46億25百万円減少し、429億95百万円（同9.7%減）となりました。主な要因は、現金及び預金が9億22百万円、原材料及び貯蔵品が7億78百万円、仕掛品が6億17百万円増加した一方、受取手形、売掛金及び契約資産が60億44百万円、その他流動資産が14億48百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ12億27百万円減少し、353億53百万円（同3.4%減）となりました。主な要因は、建物及び構築物が4億34百万円、土地が3億32百万円、のれんが3億5百万円減少したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末に比べ61億73百万円減少し、567億76百万円（同9.8%減）となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金が23億49百万円、長期借入金が8億40百万円、その他流動負債が7億25百万円増加した一方、短期借入金が94億68百万円、未払法人税等が4億49百万円減少したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産の合計は、前連結会計年度末に比べ3億20百万円増加し、215億71百万円（同1.5%増）となりました。主な要因は、剰余金の配当により4億37百万円減少した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益により7億66百万円増加こと等によるものであります。

これらの結果、自己資本比率は27.5%（前連結会計年度末は25.2%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は38億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億63百万円増加いたしました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の営業活動の結果獲得した資金は、104億73百万円となりました。これは主に棚卸資産の増加16億58百万円、法人税等の支払額9億26百万円があった一方、税金等調整前四半期純利益12億84百万円、減価償却費8億63百万円、売上債権の減少60億44百万円、その他の資産の減少15億97百万円、仕入債務の増加23億86百万円があったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の投資活動の結果使用した資金は、4億34百万円となりました。これは主に固定資産の取得による支出8億98百万円があったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の財務活動の結果使用した資金は、90億76百万円となりました。これは主に配当金の支払額4億37百万円があった一方、借入金の減少86億27百万円があったこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。なお、2023年5月12日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,088	4,011
受取手形、売掛金及び契約資産	24,431	18,387
商品及び製品	12,913	13,461
仕掛品	294	911
原材料及び貯蔵品	2,983	3,762
その他	3,924	2,476
貸倒引当金	△14	△14
流動資産合計	47,621	42,995
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,583	14,148
土地	11,366	11,033
その他（純額）	2,347	2,442
有形固定資産合計	28,297	27,625
無形固定資産		
のれん	1,310	1,005
その他	593	532
無形固定資産合計	1,904	1,537
投資その他の資産		
その他	6,501	6,318
貸倒引当金	△122	△128
投資その他の資産合計	6,379	6,189
固定資産合計	36,581	35,353
資産合計	84,202	78,348

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,760	21,109
短期借入金	15,504	6,035
未払法人税等	798	348
賞与引当金	889	768
工事損失引当金	21	26
完成工事補償引当金	63	51
その他	6,677	7,401
流動負債合計	42,713	35,742
固定負債		
長期借入金	14,313	15,154
退職給付に係る負債	2,547	2,601
資産除去債務	1,929	1,946
その他	1,445	1,331
固定負債合計	20,236	21,034
負債合計	62,950	56,776
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,051	1,076
資本剰余金	656	681
利益剰余金	18,535	18,864
自己株式	△0	△0
株主資本合計	20,242	20,621
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	980	907
繰延ヘッジ損益	△7	9
退職給付に係る調整累計額	36	33
その他の包括利益累計額合計	1,008	950
純資産合計	21,251	21,571
負債純資産合計	84,202	78,348

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	64,288	61,978
売上原価	50,787	48,503
売上総利益	13,500	13,475
販売費及び一般管理費	12,373	12,442
営業利益	1,126	1,032
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	24	24
受取補償金	42	33
出資金運用益	124	79
その他	155	174
営業外収益合計	349	315
営業外費用		
支払利息	31	37
その他	23	48
営業外費用合計	54	86
経常利益	1,422	1,261
特別利益		
固定資産売却益	4	176
特別利益合計	4	176
特別損失		
固定資産除売却損	39	20
減損損失	43	133
投資有価証券評価損	10	—
特別損失合計	94	154
税金等調整前四半期純利益	1,332	1,284
法人税、住民税及び事業税	695	365
法人税等調整額	△67	152
法人税等合計	628	517
四半期純利益	703	766
親会社株主に帰属する四半期純利益	703	766

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	703	766
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	75	△73
繰延ヘッジ損益	△6	16
退職給付に係る調整額	△1	△2
その他の包括利益合計	68	△58
四半期包括利益	772	707
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	772	707

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,332	1,284
減価償却費	849	863
減損損失	43	133
のれん償却額	182	203
その他の償却額	9	7
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	0	6
賞与引当金の増減額 (△は減少)	89	△120
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	14	5
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	11	△11
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	33	50
受取利息及び受取配当金	△27	△27
支払利息	31	37
為替差損益 (△は益)	△15	△0
投資有価証券評価損益 (△は益)	10	—
固定資産除売却損益 (△は益)	35	△156
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,639	6,044
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,343	△1,658
その他の資産の増減額 (△は増加)	△707	1,597
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,419	2,386
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△163	816
その他の負債の増減額 (△は減少)	2,039	△53
小計	△793	11,409
利息及び配当金の受取額	27	27
利息の支払額	△30	△36
法人税等の支払額	△361	△926
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,158	10,473
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	92	40
固定資産の取得による支出	△2,255	△898
固定資産の売却による収入	21	397
固定資産の除却による支出	△15	△2
投資有価証券の取得による支出	△30	△11
非連結子会社株式の取得による支出	△6	△5
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△793	—
長期貸付金の回収による収入	0	2
長期前払費用の取得による支出	△10	△2
その他	177	43
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,817	△434
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	5,817	△7,132
長期借入れによる収入	500	2,610
長期借入金の返済による支出	△2,007	△4,105
リース債務の返済による支出	△25	△11
配当金の支払額	△416	△437
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,867	△9,076
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△106	963
現金及び現金同等物の期首残高	4,271	2,871
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,164	3,835

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	建設事業	貿易事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	38,222	23,488	2,234	63,944	38	63,983
その他の収益	67	33	—	100	204	304
外部顧客への売上高	38,289	23,521	2,234	64,045	242	64,288
セグメント間の内部 売上高又は振替高	39	1	8	49	—	49
計	38,329	23,522	2,243	64,094	242	64,337
セグメント利益又は損 失(△)	493	964	119	1,577	48	1,626

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,577
「その他」の区分の利益	48
セグメント間取引消去	△6
全社費用(注)	△493
四半期連結損益計算書の営業利益	1,126

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費となっております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	建設事業	貿易事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	39,463	18,210	3,431	61,105	481	61,586
その他の収益	69	44	—	113	278	392
外部顧客への売上高	39,532	18,254	3,431	61,218	759	61,978
セグメント間の内部売上高又は振替高	101	2	8	111	51	163
計	39,634	18,256	3,439	61,330	811	62,142
セグメント利益又は損失(△)	559	208	611	1,379	109	1,488

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,379
「その他」の区分の利益	109
セグメント間取引消去	5
全社費用(注)	△461
四半期連結損益計算書の営業利益	1,032

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費となっております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	小売事業	建設事業	貿易事業	計	その他	全社・消去	合計
減損損失	133	—	—	133	—	—	133

(のれんの金額の重要な変動)

「小売事業」において、のれんの減損損失を計上したため、のれんの金額が減少しております。当該事象におけるのれんの減少額は101百万円であります。なお、上記(固定資産に係る重要な減損損失)に当該のれんの減損も含めて記載しております。